

< 參考資料 >

1. 地区別の活性化コンセプト実現に向けた課題

地区別の活性化コンセプト実現に向けた課題は以下のとおりです。

1.1 堺旧港

活性化コンセプト：「都心での海辺文化・賑わいの再興」

【課題1】 公有地の早期活用

堺旧港周辺には、堺市所有の**低未利用地が存在**しています。堺市の玄関口である南海本線堺駅と堺旧港の間に市有地があり、地区の**活性化には優位なポテンシャル**を有しています。

当地区のシンボルとなっている龍女神像があるが、周辺緑地を含めて**一体的な利用がなされていません**。

一方、実情はイベント時の駐車場等に使用されている程度で、**有効な活用がなされていません**。

市民のニーズからは行きたくない・楽しめる・憩える交流施設の整備・誘致を求める声が上がっています。

以上より、堺旧港においては、「**公有地の早期活用**」が必要です。

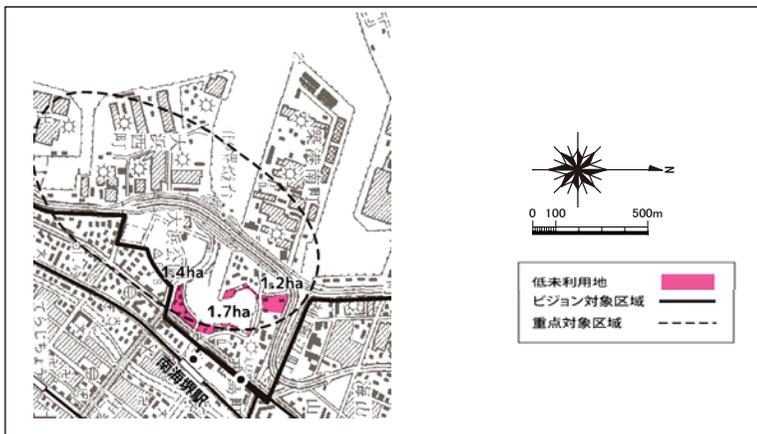


図 堺旧港周辺の市有地

【課題2】 市街地とのアクセス性の向上

堺旧港は堺駅及び宿泊施設と隣接しており利便性は高いが、堺旧港へのアクセスは、**国道26号や縦川で分断**されているため、歩行者は迂回を強いられています。上記の相互アクセスを示した案内板等は設置されているものの不明瞭で、**アクセス性が損なわれています**。

また、市民ニーズからも堺駅からの**アクセス性に対する改善**を望む声が上がっています。

以上より、堺旧港においては「**市街地とのアクセス性の向上**」が必要です。



図 堺駅からのアクセス

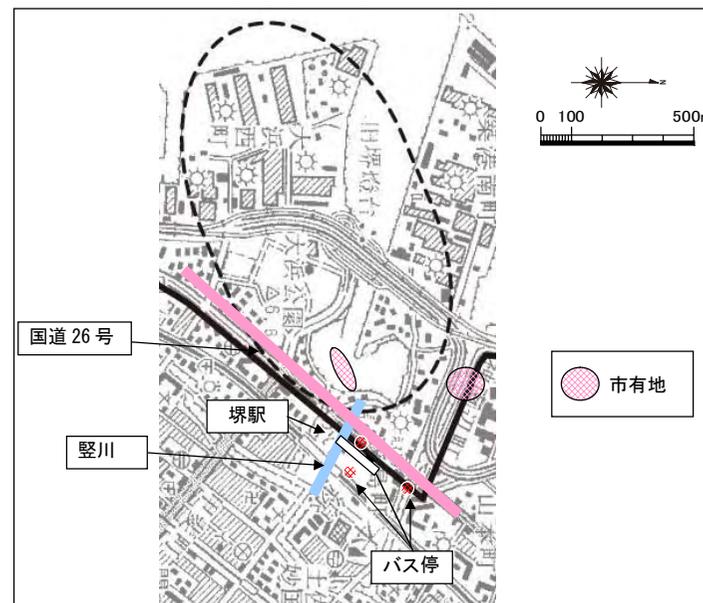


図 堺駅やバス停からのアクセス（国道、河川により分断された旧港）



図 迂回する歩行者交通の例

【課題3】 地区内の回遊性の確保

堺旧港においては、旧堺燈台や龍女神像などの歴史的建造物が存在しているが、入り組んだ地形のため、気軽に安全に回遊することができません。以前は堺旧港内で渡し船が出ており、旧堺燈台と龍女神像間を容易に行き来できたが、現在渡し船は行われていません。

旧港の運河を挟んで南北に大浜公園と大浜北公園が立地しているが、南北間のアクセスが容易ではないため、**一体的に利用されていません**。

また上記の相互アクセスを示した案内板等は設置されておらず、**回遊性が損なわれています**。

市民ニーズからも、**堺駅と旧港内の回遊性の向上**を望む声が上がっています。

以上より、堺旧港においては「**地区内の回遊性の確保**」が必要です。



図 旧堺燈台



図 龍女神像

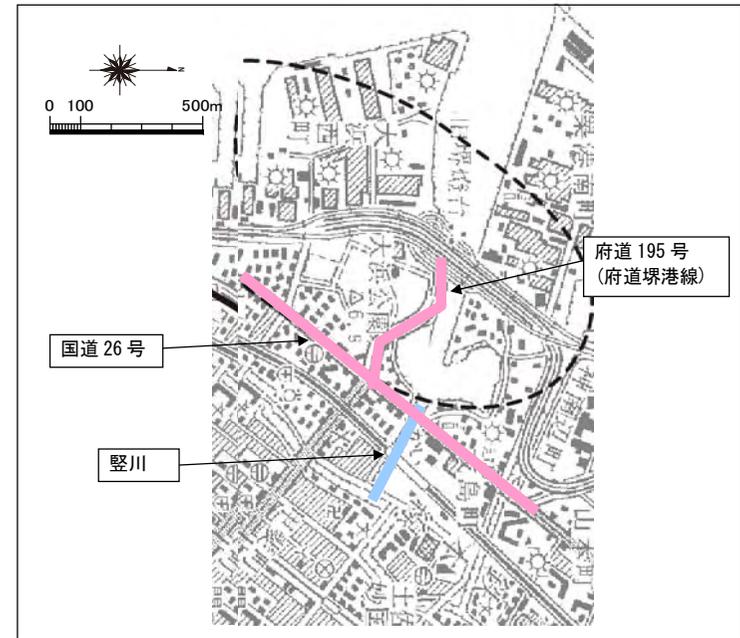


図 堺駅からのアクセス (国道、府道、河川により分断された市有地)

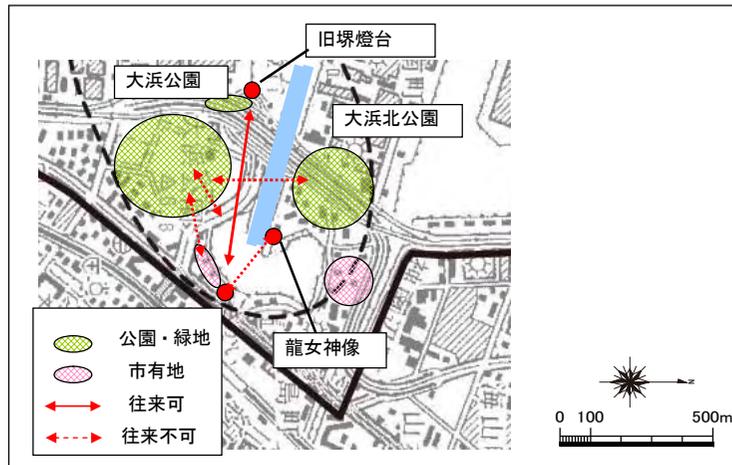


図 旧港内の回遊性

【課題4】 燈台・公園の賑わいづくり

燈台周辺緑地には、歴史的な文化遺産が多数存在しているが十分に活用されていません。

また、大浜体育館・大浜相撲場は、市民の体育・スポーツ、レクリエーションの振興を図り、健康や体力の増進に資する施設です。施設利用者数に着目すると、平成17年度には約11万人であった利用者は平成21年度では約17万人となっており利用者数は増加傾向にあり、当地区に対するスポーツ需要は高まっています。また、体育館の老朽化により建て替え時期が近づいていることから、これに合わせたリニューアルの検討が必要となります。



図 大浜公園の歴史・文化資源

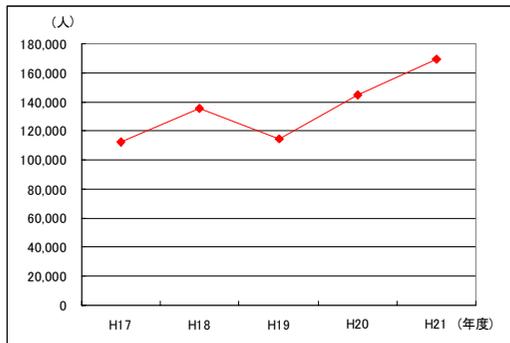


図 増加する大浜体育館・大浜相撲場の利用

一方、大浜北公園については、大浜公園とのアクセス性が悪く、一体的な利用ができていません。また、阪神高速湾岸線大浜ランプ下は、草木が茂っており国指定の史跡に対して相応しい周辺整備がなされていません。阪神高速湾岸線下の歩道橋を通り大浜公園との行き来が可能となっているが、明確な案内表示がなく、気軽に安心して立ち寄ることができません。

市民のニーズからは、臨海部の親水公園・緑地の整備推進を望む声が上がっています。

以上より、堺旧港においては「燈台・公園の賑わいづくり」が必要です。



図 阪神高速高架下の歩道橋

【課題5】 高架道路、周辺工場等の景観への配慮

堺旧港には、階段式の親水護岸や旧燈台、リーガロイヤルホテル堺等の良好な視点場があります。また、江戸時代から残る石積み護岸など貴重な資源を有している。一方で、周辺の風光明媚な景観とは調和がとれていない工場群が存在しています。

以上より、堺旧港においては「高架道路、周辺工場等の景観への配慮」が必要です。

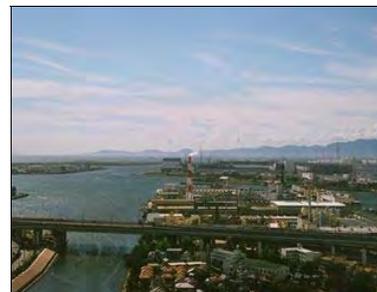


図 リーガロイヤルホテル堺からの眺望



図 堺のシンボル旧堺燈台

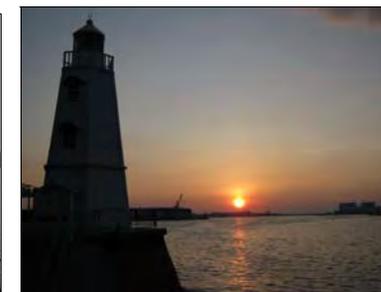


図 周辺との調和が必要な工場群



図 江戸時代から残る石積み護岸